

3

瀬戸

瀬戸市立水無瀬中学校	○稲垣	いながき やすたか 康孝
瀬戸市立南山中学校	杉本	すぎもと ゆうた 雄太
瀬戸市立水野中学校	野田	のだ かずき 和輝
瀬戸市立水野中学校	小川	おがわ たくや 卓也

分科会番号	3
-------	---

分科会名	社会科研究会（中学校）
------	-------------

## 生きる力を育てる社会科学習

### －地理的分野「地域の在り方」の実践を通して－

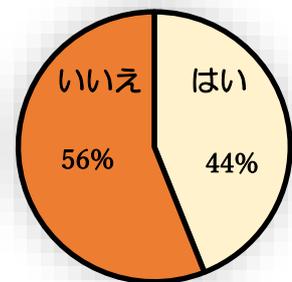
#### 1 はじめに

瀬戸市小中学校社会科研究会では、「未来を切り拓き、豊かな社会を創り出す社会科学習」と題して実践を重ねてきた。我々は、生きる力を「社会における様々な問題において、主体的・対話的で深い学びを通して、獲得した知識をもとに思考力・判断力・表現力を駆使し、社会的事象に対する自らの意思を決定する力」と捉え、生徒の生きる力を育成してきた。第73次教研では、歴史的分野「明治維新」を取り上げ、話し合い活動を通じて多面的・多角的な視点から考えを深めさせることで、主体的に課題を追究し、自らの意思を決定することができる生徒の育成を目指し実践を行った。今次教研では、地理的分野の「地域の在り方」を取り上げ、地域の課題を捉えながら、地域の未来の在り方を考える学習を通して研究を進めていくことにした。

#### 2 主題設定の理由

近年、社会科の学習を通して郷土愛を醸成することが求められている。瀬戸市は、住民の高齢化や焼き物産業の衰退が進み、瀬戸の街の魅力をどう残していくかが課題となっている。一方で、旧市街地の再開発や近隣の市の発展により、街の再生も期待できる。今後の瀬戸市の未来を担う生徒達にとって、瀬戸市の魅力を理解し、今後の瀬戸市の在り方を考えていくことはとても重要な課題であると考えた。実践前に行ったアンケートでは、「将来、瀬戸市に住み続けたい」と答えた生徒は44%であった。また、瀬戸市をより良い街にするためにはどのようなことが必要だと思うかという質問に「遊ぶ場所をつくる」といった、短絡的な考えの生徒が多く、「わからない」と答える生徒も少なからずいた。これらのアンケート結果から生徒は、地域への関心や、自分たちの力で地域を良くしていこうとする意欲が低いのではないかと考えた。さらには、自分の考えをもったり、表現したりすることが苦手であることが分かる。そこで、身近な地域を教材化し、地域のことに對して自分なりの考えをもち、意思決定ができる生徒の育成を目指し、本実践に取り組んだ。

将来、瀬戸市に住み続けたいと思いますか



#### 3 研究仮説

地域の未来を構成していくための課題を設定し、課題に対して自分の立場の選択を迫られる場面を設定すれば、自らの意思を決定することができるだろう。

#### 4 研究の手立て

手立て① 地域の未来を構成していくための課題を設定させる。

- ・ 身近な地域を教材化することで生徒自らが課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとする意欲を高めさせる。
- ・ 瀬戸市の今後の在り方を具体的に考えさせることで、自分たちの地域をよりよくしていこうとする気持ちを高めさせる。

手立て② 自分の立場や考えを選択する場面を設定し、自らの意志を決定させる。

- ・ 瀬戸市が今後、どの産業に力をいれていくべきなのか、選択を迫ることで自分の立ち位置を明確にさせる。
- ・ それぞれの立ち位置で考えを深めさせ、模擬議会を開き意見交換をすることで、多面的、多角的に考えられるようにする。

#### 5 抽出生徒

抽出生徒として、生徒A・Bの変容を追いながら、仮説に対する手立ての有効性を検証していくことにする。生徒A・Bの実態は以下の通りである。

生徒A

社会的事象への関心が高く、意欲的に課題に取り組むことができる。また、知識も豊富で自分の考えをもつことができる。しかし、瀬戸市への関心は低く、また他者の意見によって自分の考えを深めるには至っていない。

生徒B

社会的事象への関心が低く、課題に取り組もうとする意欲も低い。学習によって知識の習得はしようとはするが、自分の考えをもったり、それを伝えたりすることは難しい。

#### 6 単元展開

##### 【第1時】 瀬戸市が抱える課題について考える

- ・ 瀬戸市にはどのような問題があるか意見を出し合う。
- ・ 瀬戸市が抱えている問題を付箋に書き出して分類し、整理する。

##### 【第2時】 瀬戸市の良さや、瀬戸市の発展に活かせるような要素を考え、学習課題を設定する

- ・ 瀬戸市の良さや強みについて意見を出し合う。
- ・ 瀬戸市が抱える課題と強みを踏まえ、学習課題を設定する。

##### 【第3－4時】 日本や愛知県、身近な市の産業構成について知る

- ・ 愛知県全体や、県内の他の市町の産業構成について知る。
- ・ 瀬戸市は第二次産業か第三次産業のどちらに力を注ぐべきかを考える。

##### 【第5－6時】 模擬議会の準備をする

- ・ 模擬議会に向け、自分たちの主張や相手への反論を考える。

##### 【第7時】 模擬議会を開く

- ・ 第二次産業と第三次産業の二つの立場に分かれ、模擬議会を開き、互いの意見を主張する。

##### 【第8時】 魅力ある瀬戸を創造するため、自分の意見をまとめる

- ・ これまでの学習活動を振り返り、魅力ある瀬戸について考えたことや感じたことをまとめる。

## 7 研究の実践

### 【第1時】 瀬戸市が抱える課題について考える

事前アンケートで「将来、瀬戸市に住み続けたいと思いますか」という質問に対して、半数以下の44%の生徒が「はい」と答えた。第1時では、この結果を生徒に紹介し、瀬戸市にはどのような課題があるのか、グループで話し合いを行った。付箋に課題を書き出し、分類しながら用紙にまとめていった。話し合ったことを、各グループで発表し、クラスで共有をした。人口の減少や高齢化が進んでいること、陶磁器産業が衰退していること、遊びにでかけるところがないことなどが課題としてあがった。またそれらの課題をまとめて、若い人たちにとっての魅力が低いという意見があがった。

<生徒Aの振り返り>

瀬戸市は他の市町に比べ街も古く、高齢化も進んでいるため、魅力があまりないと思った。特に若い人たちにとっては、遊びに行くところもないので、新しく変わっていったらいいと思う。

<生徒Bの振り返り>

瀬戸には課題が多いことが分かった。せとものなどの伝統産業がもっと盛んになるといいと思う。

### 【第2時】 瀬戸市の良さや、瀬戸市の発展に活かそうな要素を考え、学習課題を設定する。

前回クラスで共有した瀬戸市の課題をふまえ、瀬戸市の良さや、発展に活かそうな要素についてグループごとに話し合いを行い、発表した。焼き物産業が盛んなこと、藤井聡太によって知名度が上がっていること、高速道路が通っていることや、人口の多い豊田市や名古屋市に隣接していること、開発できそうな安価な土地が残されていることなどがあげられた。そこで、それらの要素を生かしながら、瀬戸市をどのように変えていくべきか話し合ったところ、「観光に力を入れ、もっと人が遊びにきてくれるような街にするべき」という意見や、「土地の広さや高速道路がある利点を活かして、工場などを誘致すべき」という意見が出た。ここで、「瀬戸市を魅力ある街にするためのアイデアを考えよう」という学習課題を設定した。

話し合いの様子



<生徒Aの振り返り>

瀬戸市は課題も多いが、藤井聡太のおかげで知名度が上がっているし、高速道路が通っていることや土地が余っていることなど、まだまだ発展する可能性が残っていると思った。

<生徒Bの振り返り>

瀬戸市は悪いことばかりではなく、いいところもあった。瀬戸は不便だと思っていたけど、電車や高速道路が多いから、意外といいところもあった。

### 【第3・4時】 日本や愛知県、身近な市の産業構成について知る

前回の話し合いをもとに、瀬戸市は今後、ものづくりを中心とした第二次産業と、観光やサービス業、商業を中心とした第三次産業のどちらに力を注ぐべきかを考えることにした。考えるにあたり、第3時では、日本の産業構成や愛知県の産業構成の特徴や変化について学んだ。日本はもともと第二次産業によって成長してきたが、近年は新興国などの発展により、第二次産業から第三次産業にシフトしてきていることを学んだ。また、愛知県は他県に比べ、自動車産業を中心に第二次産業の割合が非常に高いことを学んだ。

第4時では、身近な市として、豊田市と長久手市の例を挙げ、それぞれの市の良さを調べさせた。豊田市については、鞍ヶ池公園や豊田スタジアム、交通安全学習センターなど、瀬戸市と比べて施設が充実していることが分かった。そして、それらが全て、市が所有する施設だと知り、瀬戸市との違いに驚いていた。なぜ豊田市の公共施設が充実しているのかを尋ねると、「トヨタ自動車などの大企業がお金を出しているからだと思う」「大企業があると、市に税金が入るから」という意見が出た。

長久手市については、大型ショッピングモールや、大型家具店、全国的に人気なテーマパークがあることに着目し、他の市町から若い人たちが遊びにくるような場所が多いことが分かった。また、長久手市が、住みよい街ランキングの上位に入っていることを知り、「商業施設が多いから、若い人に人気があるのだと思う」という意見が出た。

瀬戸市の良さを再度確認し、豊田市のように第二次産業に力を注ぐべきか、長久手市のように第三次産業に力を注ぐべきかを一人ひとりに考えさせ、どちらか選ばせた。第二次産業を選んだ人が14人で第三次産業を選んだ人が35人だった。次時から、瀬戸市の代表として、どちらの産業に力を注ぐべきか、模擬議会を開き検討していくことを伝えた。

<生徒Aの振り返り>

第三次産業のほうが、若者にとって人気はありそうだけど、瀬戸には向かない気がした。もともと焼き物が有名な街だから、焼き物をもっと盛んにしたり、自動車の部品を作ったりして、第二次産業をのばしていったほうがいい気がする。高速道路で輸送もできそう。

<生徒Bの振り返り>

瀬戸市には土地があるから、長久手のようにたくさんお店を作ったら、人が集まりそうだし、若い人たちが喜びそうだった。第三次産業のほうが儲かる気がする。

**【第5・6時】模擬議会の準備をする**

同じ立場の生徒で4人～6人のグループを作り、模擬議会に向けた準備を行った。自分たちの主張や、予想される反論、相手の主張への反論などをグループで話し合い、ワークシートにまとめた。

**【第7時】模擬議会を開く**

瀬戸市の発展のためには、第二次産業に力を注ぐべきというグループと、第三次産業に力を注ぐべきというグループに分かれて模擬議会を開いた。討議の方法は右の通りである。また、模擬議会では以下のような意見が出された。

<模擬議会の方法>

- ① 各グループからの初めの主張
  - ② 各グループへの質問・反論
  - ③ 質問・反論に対する返答
  - ④ まとめの意見
- ※間に5分間の相談タイムを設ける

	第二次産業に力を注ぐべき	第三次産業に力を注ぐべき
初めの主張	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市と高速道路でつながっている。インターの近くは土地が余っているから自動車の部品工場をつくるといい。</li> <li>・瀬戸市に企業が増えれば、瀬戸市に仕事が増えて、定住する人も増えるはず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸市は高齢化が進み、陶磁器産業も衰退している。商業に力を入れて若者にとって魅力ある街にするべき。</li> <li>・ジブリパークの開園やパークホテルの開業で人が集まる要素が増えた。</li> <li>・名古屋市や豊田市のベッドタウンとして、仕事を増やすより生活に必要な店を増やしたほうがいい。</li> </ul>
質問・反論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジブリパークが開園しても、周辺の市町の景気に影響はないというニュース記事がある。</li> <li>・商業施設を作ることで長久手のように渋滞が増え、住民に迷惑がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来就きたい職業ランキングに第二次産業は入っていないから、第二次産業に力を入れても定住は見込めない。</li> <li>・土岐市のように、高速道路のインター近くに商業施設をつくってもいいと思う。</li> </ul>
質問・反論に対する返答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就きたい職業ではないかもしれないが、製造業の賃金は高いし、流行などに左右されにくいから、安定した発展が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路の近くに大型の商業施設をつくれれば渋滞は緩和できる。</li> </ul>
まとめの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次産業は名古屋市や長久手市がすでに発展していて難しい。瀬戸市の発展を長期的に考えると、陶磁器産業だけでなく、自動車産業などの需要もあるし、流行に左右される第三次産業よりも、第二次産業のほうがいいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者にとって魅力的な街にすることが、瀬戸市をつくりかえていくためには大切なことだと思う。</li> </ul>

<生徒Aの振り返り>

模擬議会をやって、自分たちの主張が認められてうれしかった。第三次産業のほうが、若い人たちは喜ぶかもしれないけど、ジブリパークの影響があまりないこともわかったし、瀬戸市の発展を考えたら、働く場所や企業からとる税金も大事だと思うので、改めて第二次産業のほうがいいと思った。

<生徒Bの振り返り>

模擬議会では負けてしまったけど、しっかりと発表ができてよかった。第三次産業の方が人気があると思っていたけど、渋滞などの問題もあった。

模擬議会の発表の様子



模擬議会の相談の様子



### 【第8時】 魅力ある瀬戸を創造するため、自分の意見をまとめる

模擬議会の内容を、本校の社会科教員で評価した結果、第二次産業に力を注ぐべきだという考えを支持することとなった。さらに、第二次産業を発展させていくためには、第一次産業や第三次産業も同時に発展させていくことが重要であるという助言をもらった。その上で、瀬戸市をどのように発展させていきたいか、自分の意見をまとめた。

<生徒Aの振り返り>

先生の話聞いて、第六次産業という考えがあることを知った。どちらかの産業にこだわるのではなく、総合的に発展していくことが一番いいのかもしれない。例えば、せとものを作るだけでなく、商店街を「せともの通り」に作りかえて、観光につなげたり、せとものを使ったレストランを作ったり、工場見学などもいいと思った。豊田市と連携して、瀬戸市も自動車の街として発展していくこともできるかもしれない。この授業を通して、瀬戸にはせとものだけでなく、色々な良さや可能性があることに気づけました。

<生徒Bの振り返り>

瀬戸市のことについてたくさん考えることができた。みんなと話し合いをしてたくさん案を出したことは楽しかった。瀬戸には何もないと思っていたけど、これから色々なものを作っていったら変わって行く気がした。

## 8 研究の成果

### 手立ての検証

#### 【手立て①について】

瀬戸市の未来を構成していくための課題を設定することで、自ら課題意識をもち、主体的に学習に取り組もうとする姿が見られた。また、答えのない課題であるため、答えをもつのではなく、自分たちで調べ、考えようとする意欲的な姿が見られた。事前アンケートでは瀬戸市の魅力について「焼き物が有名」「自然がある」などの漠然とした事柄しか出ていなかったが、話し合いを重ねるうちに、他市との関わりや交通網など、地理的な側面からも瀬戸市の魅力に気付くことができた。それらの魅力に気付くことで、瀬戸市をよりよく変えていくことができるという可能性を感じ、自分たちの地域をよりよくしていこうとする気持ちを高めることができた。

#### 【手立て②について】

瀬戸市の今後を考える際に、第二次産業か、第三次産業かという二つの立場と考えを選択する場面を設定することで、自分の立ち位置を明確にすることができた。自分の立ち位置が明確になることに

よって、調べ学習や話し合い活動の方向性も絞られ、考えをより深めることができた。また、二つの対立する立場で模擬議会を開き、自分たちの主張だけでなく、相手に対する反論を考えたり、相手からの反論を予想したりすることで、多面的・多角的に考えることができた。

### 抽出生徒の変容

生徒Aは、もともと知識が豊富な生徒であったが、瀬戸市についてあまり興味と知識をもっていなかったが、模擬議会に向けては、自分たちの主張を通すため、瀬戸市の課題や魅力について真剣に調べていた。実践前アンケートでは「将来、瀬戸に住み続けたいと思わない」と回答していたが、実践後のアンケートでは「将来、瀬戸に住み続けたい」と答えた。また、模擬議会やその後の助言をもとに、さらに自分の考えを深め、第六次産業という考えにたどり着くことができた。これらのことから、自分の地域に対してより興味・関心を深め、様々な立場の意見を取り入れることで自分の考えをより深めることができたといえる

生徒Bは、実践前アンケートでは瀬戸市の魅力について「分からない」と答えた。普段は、受け身的な態度であるが、実践の中では、タブレット端末で瀬戸市の観光地などについて調べたり、話し合い活動に意欲的に参加したりする様子が見られた。模擬議会においても自分の立場を明確にすることができ、話し合い活動にも参加し、模擬議会ではグループで話し合った意見を発表することができた。実践後のアンケートで、「瀬戸市をより良い街にするためにはどのようなことが必要か考えることができたか」という質問に、できたと答えた。これらのことから、課題に対して意欲的に取り組み、自分の考えをもつことができたといえる。

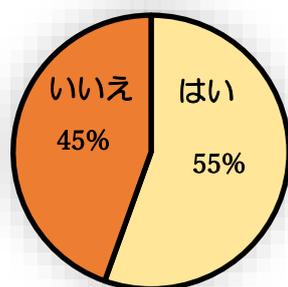
### まとめ

身近な地域を教材化することによって、生徒は切実感をもって学習課題に向かい、課題解決にむけて意欲的に学習に取り組むことができた。また、まだ答えのない地域の未来を考える学習課題を設定することで、生徒は主体的に調べたり、考えたり、話し合ったりすることができた。事後アンケートでは、「瀬戸市をより良い街にするためにはどのようなことが必要か考えることができたか」という質問に対して、91.5%の生徒が「できた」と答えた。生徒にとって身近で関わりの深いことを教材化することは、生徒の学ぶ姿勢に大きな影響を与えることを再確認できた。

また、自分の立場を選択し、明確にすることは、自ら意志決定をする力を育むだけでなく、話し合いの方向性を絞り、理論的に考えを構築することにも有効であった。二つの対立する立場を設け、議論をさせることで相手への反論を考えたり、自分たちへの反論を予想したりと、多面的・多角的に物事を考える

ことにつながった。また、模擬議会で自分たちの主張を通すため、より説得力のある意見や資料を集めようとする姿が見られた。今回の実践では、自分の立場を選択し、自らの意志を決定させたが、様々な意見に触れた後、再度意志決定をし直す場面が設定できれば、より思考力・判断力・表現力を高めることができたのではないかと思う。今後も、この反省を踏まえ、今回の手立てが他の領域や他の分野で有効であるかどうか、研究を重ね実践を行っていきたい。

将来、瀬戸市に住み続けたいと思いますか



瀬戸市をより良い街にするためにはどのようなことが必要か考えることができましたか

